



浜松医科大学 財務レポート 2010

Financial Reports 2010

平成21事業年度 2009年4月1日～2010年3月31日

浜松医科大学は、

- 1) 優れた医療人を養成すること(教育)
- 2) 独創的で世界の最先端研究の拠点になること(研究)
- 3) 最善・最高の医療を提供し地域医療の中核的役割を果たすこと(診療)
- 4) 産学官連携など、大学が持つ「知」を社会へ提供、還元すること(社会貢献)

を使命とし、「教育」、「情報・広報」、「総務」、「研究推進」、「経営」、「病院運営」及び「調査・労務」の7つの企画室を設置し、4名の理事及び3名の副学長を中心に中期目標・中期計画に沿って事業の企画立案を行っています。

今後についても「多様な資金の確保」、「経費の効率的な使用・管理経費の抑制」、「有効な資源の配分」を推進し、教育、研究、診療及び社会貢献等の質の向上に取り組み、社会に期待される大学を目指していきます。



浜松医科大学長

中村 達

法人化して今年度は7年目。第1期中期目標期間が終了し、平成21年度の財務報告を判りやすくレポートするものです。法人化により財務上の裁量が大学に任されるようになって、第1期期間中はたくさんの事業を成し遂げました。資金は目的積立金、自己収入、間接経費、運営費交付金及び施設営繕費などで賄われています。

平成21年度の主だった事業を挙げると地デジ対応共同受信設備を整備し、保育所を増築し収容数を35名に増やしました。また、職員用駐車場が職員の増数により不足傾向にあり、患者さんが遠くの駐車場から風雨の中を歩いて病院に来られることが特に障害者に気の毒であったことから患者用立体駐車場を整備しました。

研究者のためには動物実験施設が狭隘化し、研究棟B1Fにあった動物実験室及び2Fと8FにあったRI実験施設を既RI動物実験施設に集約し、哺乳類であるマーモセットを用いた研究を浜松医科大学で出来るように動物実験施設を増築しました。これらは第2期中期目標期間中の運営に有効な準備であったと考えています。この結果、研究棟に空きスペースが発生し、30年以上使われてきた数々のスペースを一層有効利用して研究者の増員に対処する目的にもかないました。

平成22年度から医学生定員数を120名に増員するために、講義実習棟教室及び生物化学実習室を改修し、学生達が安全に部活できるように武道館、体育館を改修しました。こうした事業は、第2期以降のための長い目で見て準備・投資であると認識していただければ幸いです。



浜松医科大学理事
(財務・病院担当)

瀧川 雅浩

平成21年度分の財務レポートをお送りいたします。

これまでのレポート同様、大学及び病院の事業計画、経営状態を透明性の高い形で示しております。平成21年度は第1期中期目標・計画の最後の年にあたり、経営面からみて、多くの課題をクリアーしたと考えております。皆様方のご協力に感謝いたします。

また、平成21年度は新しい病棟が竣工し、同時に、外来棟の再整備が始まりました。レポートを見ていただくと分かりますように、概算要求などによる支援を得ながら、外来棟再整備を進めたく思います。

大学をバランスよく運営・経営するためには、現場の皆さんの声を十分に聞き、問題点を拾い上げ、対処していくことが肝心かと思えます。その意味でも、平成22年度以降も、皆様方のご協力とご理解をお願い申し上げます。

【貸借対照表】(要約)

貸借対照表は決算日における資産、負債及び純資産を記載し財政状態を明らかにするものです。

借入金等の負債と国からの出資等の純資産による土地・建物等をもとに教育・研究・診療の業務活動を行っていることがわかります。

(単位:百万円)

資産の部	21年度	20年度	増減(21-20)
土地	6,489	6,489	0
建物	20,126	7,411	12,715
構築物	311	264	47
工具器具備品	6,088	3,547	2,541
図書	988	977	11
その他固定資産	13	7	6
建設仮勘定	279	10,604	▲ 10,325
無形固定資産等	148	71	77
固定資産計	34,454	29,375	5,079
現金及び預金	6,666	9,333	▲ 2,667
未収入金(※1)	2,434	2,210	224
たな卸資産	166	202	▲ 36
その他	164	63	101
流動資産計	9,431	11,809	▲ 2,378
資産合計	43,886	41,185	2,701

負債の部	21年度	20年度	増減(21-20)
資産見返負債(※2)	3,282	3,039	243
借入金	18,742	16,882	1,860
リース債務	1,449	1,303	146
運営費交付金債務	0	420	▲ 420
寄附金債務	1,375	1,202	173
前受受託研究費等	402	279	123
未払金(※3)	3,885	5,744	▲ 1,859
預り金	747	151	596
その他	122	164	▲ 42
負債合計	30,007	29,189	818
純資産の部	21年度	20年度	増減(21-20)
資本金	5,317	5,317	0
資本剰余金	4,409	1,803	2,606
利益剰余金			
目的積立金(※4)	0	1,304	▲ 1,304
積立金	3,354	2,902	452
当期末処分利益	797	667	130
純資産合計	13,878	11,995	1,883
負債・純資産合計	43,886	41,185	2,701

(資産)

平成21年度末現在の資産合計は前年度比2,701百万円(6.6%)増の43,886百万円となっています。

主な増加要因としては、建物が附属病院病棟新営工事の竣工、患者駐車場及び基礎臨床研究棟耐震改修Ⅱ期工事等により12,715百万円(171.5%)増の20,126百万円となったこと、工具器具備品が病院再整備事業の設備整備により2,541百万円(71.6%)増の6,088百万円となったことが挙げられます。

主な減少要因としては、建設仮勘定が附属病院病棟新営工事の竣工に伴い建物に振替えたことにより10,325百万円(97.3%)減の279百万円となったこと、現金及び預金が、前年度は病院再整備事業の支払い資金等があったことにより、今年度は2,667百万円(28.5%)減の6,666百万円となったことが挙げられます。

(注)

※1 未収入金 未取附属病院収入でほとんどの額(2,345百万円)は社保・国保への診療報酬請求等分で5月までには入金されるものです。

※2 資産見返負債 資産見返負債とは、運営費交付金、寄附金、補助金などを財源として取得した資産については、取得時に資産と同額の「資産見返負債(それぞれの財源の名称)」を負債に計上し、その資産の減価償却相当額と同額を取り崩し収益計上することで収支均衡に作用する独立行政法人等の独特の勘定科目です。

※3 未払金 業者等への3月末時点での支払未了額で5月末までには全額支払済です。(前年度は病院再整備工事費等の支払により増加していました。)

※4 目的積立金 当期総利益(決算剰余金)のうち現金の裏付けがあり経営努力の結果生じたことを文部科学大臣から承認されることにより、目的積立金として翌事業年度へ繰り越しが可能となります。平成21年度は中期目標期間の最終年度にあたり、病院再整備事業として診療用機器の購入、患者駐車場の設置、教育研究用設備の購入のために全額使用しました。

(負債)

平成21年度末現在の負債合計は818百万円(2.8%)増の30,007百万円となっています。

主な増加要因としては、借入金が付属病院再整備事業の借入れ等により1,860百万円(11%)増の18,742百万円となったことが挙げられます。

主な減少要因としては、未払金が、前年度は病院再整備事業の工事費用の支払い等があったことにより、今年度は1,859百万円(32.3%)減の3,885百万円となったこと、運営費交付金債務が中期目標期間の最終年度清算により420百万円減少となったことが挙げられます。

(純資産)

平成21年度末現在の純資産合計は1,883百万円(15.7%)増の13,878百万円となっています。

主な要因としては、資本剰余金では施設費による建物等の取得等により2,606百万円(144.5%)増の4,409百万円となったこと、利益剰余金では目的積立金を全額使用したこと、積立金が利益処分により452百万円(15.5%)増の3,354百万円となったことが挙げられます。

損益計算書(要約)

損益計算書は事業年度内に実施した事業等により発生した費用と収益を記載し、1年間の運営状況を明らかにするものです。教育、研究、診療等の業務(目的)別に費用を、運営費交付金や附属病院等の財源別に収益を表しています。

(単位:百万円)

費用	21年度	20年度	増減(21-20)
人件費	9,442	9,011	431
教育経費	324	253	71
研究経費	1,046	963	83
診療経費	8,587	7,343	1,244
教育研究支援経費	85	116	▲ 31
受託研究費等	749	868	▲ 119
一般管理費	393	353	40
財務費用	364	329	35
経常費用計	20,993	19,241	1,752
臨時損失	27	123	▲ 96
当期総利益	797	667	130
計	21,817	20,032	1,785

収益	21年度	20年度	増減(21-20)
運営費交付金収益	5,603	5,287	316
授業料等収益	666	649	17
附属病院収益	12,906	12,238	668
受託研究等収益	770	878	▲ 108
寄附金収益	377	393	▲ 16
間接経費収入	77	75	2
施設費収益	14	22	▲ 8
補助金等収益	372	34	338
資産見返負債戻入	286	263	23
財務収益	4	10	▲ 6
財産貸付収入等	233	151	82
経常収益計	21,313	20,005	1,308
臨時利益	350	27	323
目的積立金取崩額	154	0	154
計	21,817	20,032	1,785

(経常費用)

平成21年度の経常費用は1,752百万円(9.1%)増の20,993百万円となっています。

主な増加要因としては、教育研究支援のための補助金等の交付を受け事業を実施したことにより教育経費が71百万円(28.1%)増、研究費が83百万円(8.6%)増となったこと、診療経費が医療機器の整備、外来患者数等の増に伴う医療材料費の増により1,244百万円(16.9%)増の8,587百万円となったこと、人件費が教育研究支援のための補助金等の事業実施に伴う特任教員等の増、診療業務の向上のため看護師等の増員等により431百万円(4.7%)増の9,442百万円となったことが挙げられます。

主な減少要因としては、受託研究費等が複数年度契約に係る資産の取得に伴い減価償却額が減少し119百万円(13.7%)減の749百万円となったことが挙げられます。

(経常収益)

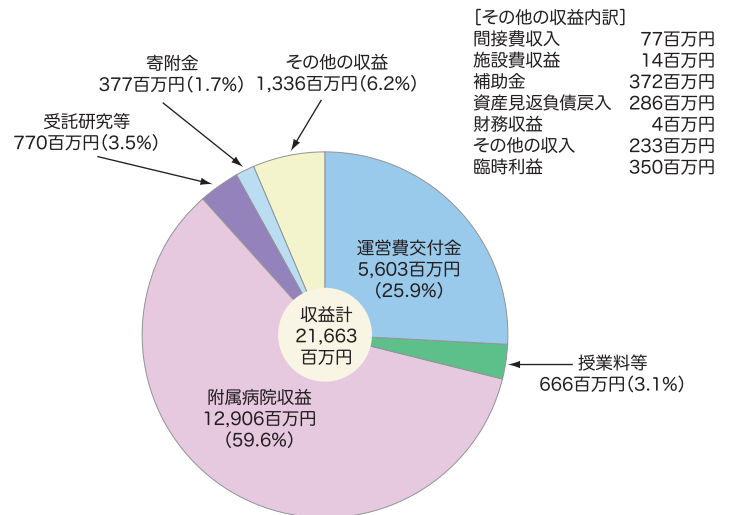
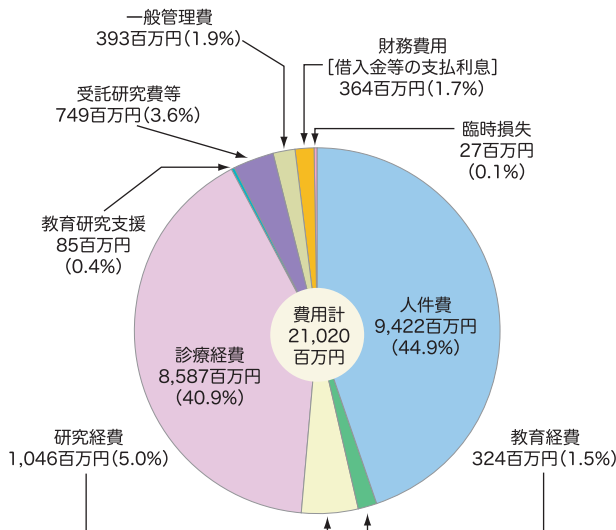
平成21年度の経常収益は1,308百万円(6.5%)増の21,313百万円となっています。

主な増加要因としては、運営費交付金収益が病院再整備事業の建物新設設備費、移転費等事業の実施により316百万円(5.9%)増の5,603百万円となったこと、附属病院収益が看護体制の整備、差額室料・各種加算による外来診療単価の向上等に伴い、668百万円(5.4%)増の12,906百万円となったこと、補助金収益が文部科学省からの大学改革推進等費補助金・研究拠点形成費等補助金の交付により338百万円(994.1%)増の372百万円となったことが挙げられます。

主な減少要因としては、受託研究等収益が複数年度契約受入分の事業実施の減少に伴い108百万円(12.2%)減の770百万円となったことが挙げられます。

※ 貸借対照表、損益計算書の端数処理については、百万円未満を切捨てています。合計についても円単位で計算したものを端数処理して百万円未満を切捨てています。

費用の部 — 平成21年度 損益計算書 — 収益の部



[その他の収益内訳]

間接経費収入	77百万円
施設費収益	14百万円
補助金	372百万円
資産見返負債戻入	286百万円
財務収益	4百万円
その他の収入	233百万円
臨時利益	350百万円

平成21年度の主な事業

運営費交付金等による国の支援の外、職員の努力により外部資金及び病院収入等が増加したなかで、効率的な運用を図ることにより下記のような事業を実施することが出来ました。

教育に関する事業

1. 医学科入学定員の増(110→120名)に伴う設備等整備事業
2. 助産学専攻科の入学定員の増(10→16名)
3. 大学教育推進プログラム【テーマA】の採択「地域医療を志向する優れた医師の養成」を目指すための地域医療体制の整備
4. がん治療における人材育成を目的としたがんプロフェッショナル養成プラン【継続】
5. 講義室の改修、体育施設・設備の整備(体育館・武道館改修、競技用ボート・スポーツトラクター購入等)
6. ポーランドのワルシャワ医科大学との学術交流協定を締結



講義室の改修

研究に関する事業

1. 先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究を推進し、国際的に高く評価される研究水準を目指すため、学術研究プロジェクトや若手研究者の育成・支援のためのプロジェクト経費を配分し、共同利用の研究設備を整備
2. 「子どものこころの発達研究センター」による教育研究事業
3. 光可視化技術を用いた生体防御反応研究による高齢化社会の安心実現のための研究事業
4. リンパ流の病態解析に基づいた新たな治療の開発と潜在的疾患の同定と予防のための研究事業
5. 動物実験施設の増設
6. 補助金事業・受託研究事業
 - ・教育研究高度化支援体制整備事業(インビボ光イメージングシステム等の設備を整備)
 - ・分子イメージング研究プログラム
 - ・先端計測分析技術・機器開発事業
 - ・科学技術試験研究事業(スーパー特区(先端医療開発特区)) 等



インビボ光イメージングシステム

診療に関する事業

1. 病院再整備事業
医学部附属病院再整備計画の第1期となる、新病棟の建築を平成18年4月から行ってきましたが、平成21年9月に竣工し、12月26日～28日に移転作業を実施。
2. 7:1看護体制実施
3. 看護師、診療助教、薬剤師等の増員
4. 手術支援システム、患者生体情報管理システム、超音波診断システム
5. 洗浄滅菌システム、治療用ベッドシステム、病棟配膳システム等
6. 病院再整備に係る医療機器更新、手術用鋼製小物更新等
7. 患者用立体駐車場の整備
8. 補助金事業・受託事業
 - ・がん診療連携拠点病院機能強化事業
 - ・治験拠点病院活性化事業
 - ・静岡県難病医療拠点病院事業
 - ・周産期医療環境整備事業
 - ・大学病院業務改善推進事業 等



患者生体情報管理システム(周産母子管理システム)



患者用立体駐車場

その他の事業

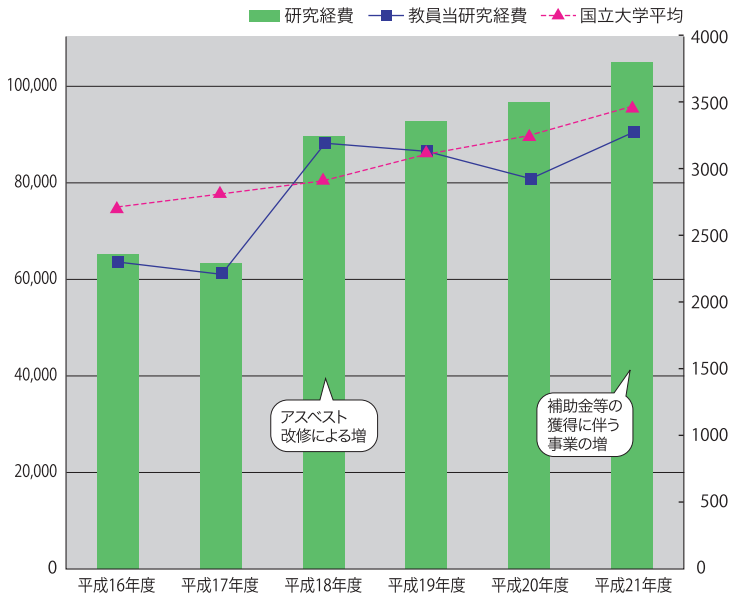
1. 基礎臨床研究棟耐震改修事業(第II期)
2. 保育所の増設
3. 学内LAN設備の更新



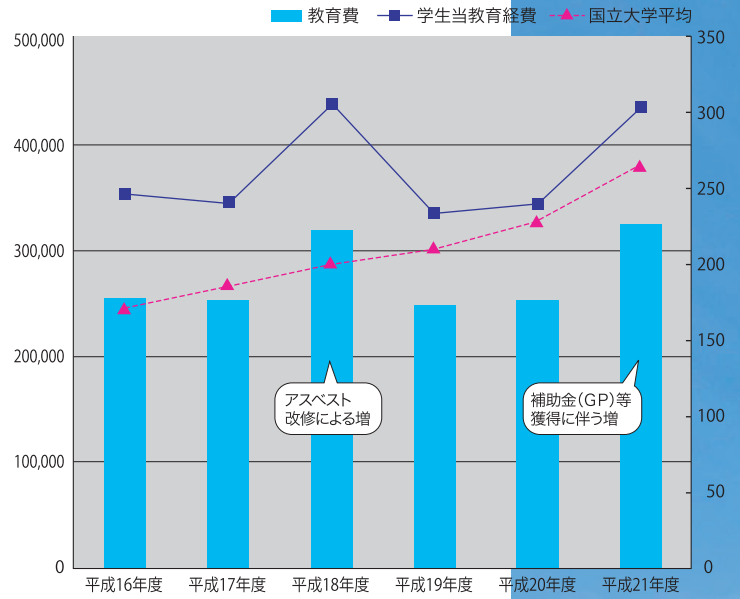
基礎臨床研究棟耐震改修事業(第II期)

第1期中期目標期間(平成16年度～21年度) 財務分析指標の推移

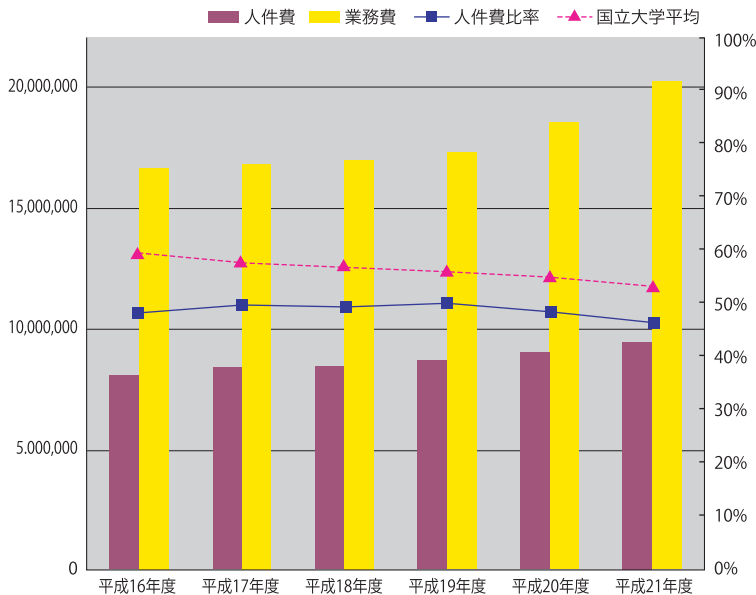
教員当研究経費(研究経費÷教員数)



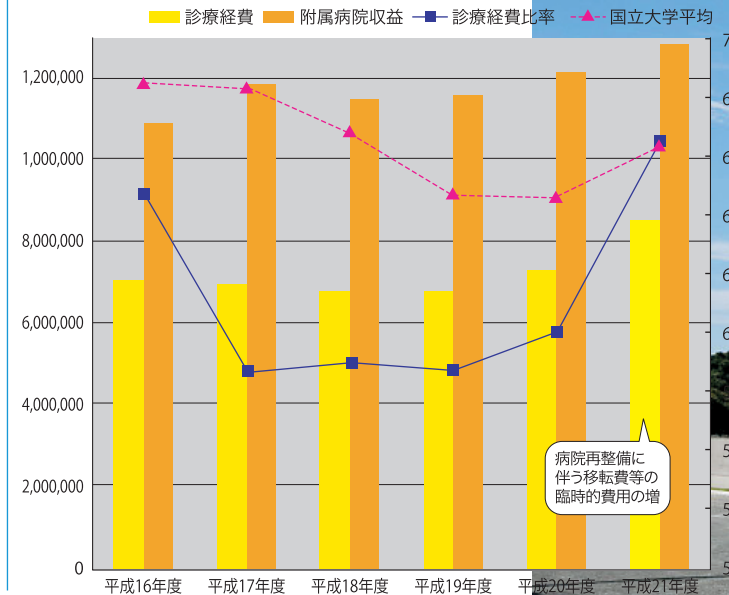
学生当教育経費(教育経費÷学生数)



人件費率(人件費÷業務費)



診療経費比率(診療経費÷附属病院収益)



【第1期中期目標期間終了時における積立金の処分】

次期中期目標期間への繰越については、「使途が特定されている額」と「会計処理上の観念的な利益額」の合計3,830,337千円が承認された。

【使途が特定されている額】

- ① 課外活動施設新営工事分 14,112千円(前年度に契約し、完成が今年度の工事に係る経費)
- ② 承継剰余金相当額 19,517千円(法人化以前に発生した損害賠償に係る経費)

【会計処理上の観念的な利益額】

- ① 積立金 3,796,708千円(損益計算上の損失補填に充てることは可能であるが、現金支出を伴う業務には使用できない)

※本レポートに関連する資料は、浜松医科大学ホームページにて開示しています。

- 中期目標・中期計画、年度計画 http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_chukimokuhyo.html
- 財務諸表、事業報告書等 http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_report_hjyouhou.html

財務レポートをお読みいただきありがとうございました。今後も皆様に財務情報をわかりやすく説明するよう努めてまいります。レポートに関する皆様からのご意見を賜りますようお願いいたします。



国立大学法人 浜松医科大学

財務レポート 2010(平成21事業年度)
 発行: 国立大学法人浜松医科大学会計課
 〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号
 TEL.053-435-2111(代)
<http://www.hama-med.ac.jp>